

優秀賞

埼玉県朝霞市立朝霞第一中学校

生徒同士で教え合う

埼玉県朝霞市立朝霞第一中学校(原口憲充校長、901人)が、初の優秀賞を受賞した。県南部にあり、3学年とも8学級ある大規模校だ。体育は2～3クラス一緒のため、一度に120人の生徒が参加することもある。

体育主任の福嶋大志教諭(37)を中心に、体育は男性教諭3人、女性教諭1人。11月のオンライン審査では、走り幅跳びの授業の映像が紹介された。コロナ対策で集合する場面ではマスクをして、不必要な会話もしないよう指導している。学習カードでお互いの課題を確認し合い、ウォーミングアップもチームごとに課題を持ってジョギング、スキップ、ダッシュなど、これからする競技に合った要素を入れている。

福嶋先生は「説明をする場面を授業開始直後にまとめ、止める場面を無くして運動時間を確保している」と話す。アンケートに9割の生徒が「体育の授業が楽しい」と回答し、そのためか授業見学者はほとんどいない。「生徒同士で教え合う機会を多く作り、主体性のある体育を心掛けている。生徒数は多いが落ち着いていて、規律が保たれていると感じる」という。

授業の振り返りには学習カードを活用。作戦を考えた結果、どうだったかなど目標に対しての達成度を書かせている。

コロナの影響で5月の体育祭は無観客開催となった。

1学期に予定されていた3年生の修学旅行は9月に延期したものの実現せず、横浜市への日帰り行事に振り替えられた。

部活はガイドラインがあり、土日のどちらかは休み。ロンドン五輪に出場した陸上短距離女子の土井杏南選手や、大相撲の大栄翔関が卒業生。

